学校だより　　令和４年１月７日

1月 かわい

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/（HP 随時更新中！）

顔を合わせて、心を繋いで

校長　窪田　剛久

新年、明けましておめでとうございます。１２月中は個人面談等、ご協力いただきありがとうございました。コロナ禍ではありますが、担任と保護者とが顔を合わせてお話をすることは、とても大切な機会と捉えています。制限のある生活を余儀なくされている子ども達の心身の状況などについて共有し、健やかな成長のために学校と保護者が思いを伝え合うことができる貴重な時間です。そこで生まれたアイディアや信頼関係は、子どもの成長に必ずプラスに作用すると思います。今後も心配事等ございましたら、ぜひ学校にお運びいただき、担任や専任とお話しなさってください。そのための門戸はいつでも開いておきたいと思っています。

さて、2022 年の干支は「壬寅（みずのえとら）」だそうです。「壬寅」は、十干（じっかん）の「壬（みずのえ）」と十二支の「寅（とら）」の組み合わせです。寅年は、十二支の３番目にあたり、動物“とら”に対応します。十干の９番目に当たる「壬（みずのえ）」は厳冬、静謐、沈滞といったことを表すそうです。「寅」は動くの意味で、春が来て草木が生ずる状態を表すそうです。これらを合わせて考えると、2022 年は冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれるというイメージになるようです。

この２年間、全世界は本当に厳しい状況におかれてきました。コロナは猛威を振るい、人々は交流をためらい、分断を余儀なくされています。日本では状況が改善してきたかと思うと、変異株が不気味な動きを見せています。しかしそれだけの厳しさに耐えてきたからこそ、今年こそは生命力に溢れた華々しい生活が世界に、そして学校に戻ってきてほしいと願います。

華々しい生活かどうかは分かりませんが、GIGA スクール構想の実現に向け、一人一台端末を導入した授業を開始してしばらく経ちました。本校でも端末を活用した授業実践を少しずつ積み重ね、効果的な活用の仕方を見つけつつあります。教員も児童も、非常に巧みに端末を使いこなしています。しかしそれと同時に課題も見えてきました。

学校ではもともと紙媒体の利用を中心とした教育を行ってきました。手には鉛筆や消しゴム、定規やコンパスなどを持ち、ノートに記述したり作図したりすることで思考を整理し、内容を理解してきました。教師も黒板に記述したり、作図したりして内容を体系化し、児童に分かりやすく伝える技術を磨いてきました。まさにアナログです。そうした風景が一人一台端末の導入で変化してきています。教師も児童も端末の画面を見つめ、顔を合わせる時間が減ってきているように感じます。端末同士で情報をやり取りすることで、黒板に書いたり、ノートに書いたりする量も減ってきました。あと数年後には、黒板に整理して書いたり、ノートをきれいにまとめたりする技能は下がっていくかもしれません。反対に、画面上に文字や図形を分かりやすく入力し、プレゼンテーションなどを行う技能が向上していくのでしょうか。手で文字を書いたり用具を扱ったりする巧緻性はどうなるのでしょう。近い将来、端末さえあれば教科書、ノート、筆記用具はいらなくなり、場所さえ問われないような時代になるかもしれません。もちろんそういった流れの全てを否定するつもりはありませんが、端末を通してだけだと心と心が繋がれないように思うのは私だけでしょうか。

アナログかもしれませんが、人は苦しい時、辛い時、手と手を取り合って支え合ってきました。直接会って声を交わすことで心を温め合ってきました。端末だけだとそういった繋がりや信頼関係はなかなか深まらないように思われます。学校では画面を見つめ続けるより、顔と顔を合わせて関係を築いていってほしいと思います。コロナ禍の今だからこそ、デジタルとアナログを結ぶ取り組みが必要なのだと感じています。保護者、地域の皆様とも、ぜひ画面越しではない、顔と顔が見える関係を築いていきたいと思います。今後ともご協力、よろしくお願いいたします。